

早稲田大学博士論文(審査報告書)		
	学位記	文科省報告
2012	6101	乙 2371

2012年 7月 4日

博士学位論文審査報告書

大学名	早稲田大学		
研究科名	人間科学研究科		
申請者指名	田村 由美		
学位の種類	博士 (人間科学)		
論文題目	チーム医療を推進する保健医療専門職育成のための インター・プロフェッショナル教育カリキュラムの構築 Development of an Interprofessional Education Curriculum for Health Professions to Promote Collaborative Practice		
論文審査員	主査 早稲田大学教授	前橋 明	博士 (医学) (岡山大学)
	副査 早稲田大学准教授	森田 裕介	博士(学術) (東京工業大学)
	副査 早稲田大学准教授	扇原 淳	博士(医学) (順天堂大学)
	副査 東京女子医科大学教授	松田 義雄	医学博士 (鹿児島大学)
	副査 早稲田大学教授	浅田 匡	

本論文の特徴は、主に3つある。①保健医療専門職の教育の改善を、現在、推進されている「チーム医療」の実践にとって必要な、保健医療チームで働く力(能力)の育成に焦点を当てた研究で、これまで、わが国では体系的に行われてこなかった視点での取り組みである。②チーム医療、チーム医療の教育という概念を、IPW (Interprofessional Work: 【多専門職協働実践】)、IPE (Interprofessional Education: 【多専門職連携教育】) という概念を用いて、現行の保健医療専門職教育の正課に組み込む形での実現可能な、実践的な IPE 教育カリキュラムを構築し、運用していくプロセスに関わる要素を3P (Presage「計画」-Process「実施」-Product「成果」)モデルを用いて明確にした。③IPE を日本で進展させていくために、IPE 評価ツール「RIPLS日本語版」を開発し、学生のIPE学習成果を評価し、構築したIPEカリキュラムの一側面を評価している。

また、論文審査委員の評価をまとめると、4点に集約される。

①大学学部教育において、IPE科目を6科目新たに設置し実施、そして、その評価を行ったことは、大いに評価される研究である。

②本研究は、学生および現段階でのチーム医療を行っている現職医療関係者に対する現状分析に基づくとともに、世界におけるIPEに関する成果を取り込みながら、学部教育としてカリキュラムを構築実践した、実践研究としての意義が大きい。また、IPEの理念に基づく教授学習方法の開発をはじめ、このようなカリキュラムを構築運用していくことに関わる要因が明確化され、今後の大学教育、とりわけ専門職育成カリキュラム改革に資する研

究であると評価した。

③世界的動向に沿った評価ツールの日本版開発も、まだ検討する余地はあるとはいえ、IPEをわが国において進展していく上で、意義がある。

④カリキュラムの開発の観点から言えば、医学保健福祉領域の既存カリキュラムと新たに設定された IPE 科目との関連、すなわち、カリキュラムの全体構造とその理論的背景となる理論との関係に関してより詳細な記述が求められるのではないかと思われた。この点については、今後の研究に期待したい。

1. 本論文（一部を含む）が掲載された主な学術論文と著書は、以下のとおりである。

- [1] Yumi Tamura, Keiko Seki, Makoto Usami, Shirakawa Taku, Peter Bontje, Hiroshi Ando, Chiemi Taru and Yuichi Ishikawa : Cultural adaptation and validating a Japanese Version of the readiness for interprofessional learning scale (RIPLS). *Journal of Interprofessional Care*, Vol.26(1), pp.56-63, UK. (2012)
- [2] 田村由美・ボンジェ・ペイター・多留ちえみ・白川 卓・石川雄一 : IPE科目の効果 : クラスルーム学習と合同初期体験実習が大学1年生のIPW学習に及ぼす影響. *日本保健医療福祉連携*, 4巻2号, pp.84-95. (2012)
- [3] 田村由美 : 子どもの健康とインタープロフェッショナル・ワーク. *運動・健康教育研究*, 20巻1号, pp.2-7. (2012)
- [4] Tamura Yumi, Ishikawa Y., Bontje P., Shirakawa T., Andou H., Miyawaki I., Watanabe K., Miura Y., Ono R., Hirata K., Hirai M., Seki, K. : Becoming Interprofessional at Kobe University. Chapter in Watanabe H, Koizumi M. Eds. 「Advanced Initiatives in Interprofessional Education in Japan」, Japan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN), pp. 95-112, Springer Japan. (2009)
- [5] 田村由美 : 連携と協働に向けての人材育成 周産期医療におけるインタープロフェッショナル教育の可能性. *母性衛生*, 49巻1号, pp.8-12. (2008)
- [6] 田村由美 編著 : 新しいチーム医療～看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門, 看護の科学社. pp.1-171. (2012)
- [7] 田村由美 : 第1章 D. 国際災害保健におけるチーム医療とインタープロフェッショナル・ワーク. 小原真理子, 酒井明子監修: 「災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂2版」, 南山堂. pp.23-27. (2012)
- [8] 池西悦子・田村由美: 第4章 リフレクション. グレグ美鈴, 池西悦子(編): 「看護学テキストNiCEシリーズ 看護教育学」, 南江堂, pp.117-128. (2009)

2. 本論文（一部）の内容が発表された学会等での主な招聘講演は、以下のとおりである。

- [1] 田村由美 : インタープロフェッショナルへの道. 第 21 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 会長講演. (2012)

- [2] 田村由美: 特別講演 スキルミクスが活きる鍵はインタープロフェッショナル・ワーク. 文部科学省科学技術振興調整費: 地域再生人材創出拠点形成事業 第1回医師・コメディカル統合的人材育成フォーラム. (2010)
- [3] 田村由美: 教育講演 創傷・オストミー・失禁ケアとインタープロフェッショナル・ワーク. 第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会.
- [4] 田村由美: 教育と実践をつなぐインタープロフェッショナル教育の創造とチャレンジ. シンポジウム, 日本看護学教育学会第20回学術集会. (2010)
- [5] Yumi Tamura: Transforming from Tradition-bound Education. 1st International Interprofessional Health and Social Care Conference, Salford University, Manchester, UK. (2008)

【公開審査会・口頭試問 (6月22日)】

全審査委員からは、質問や意見・感想が数多く出されたが、一つ一つ丁寧に応答・説明され、それらの内容を本文の中に加筆することが提案された。再提出された本文中には、加筆修正内容が明確に示されたことも、審査委員全員で確認した。

以上より、田村由美 氏の本論文は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以 上